

京都（へゆうゆうの里）入居者インタビュー

「まだまだ先でいい」のご主人が

一転して身辺整理に！

太田 計正様（78歳）・愛子様（75歳）



今回は、ご夫婦で入居された太田様夫妻をご紹介します。入居されてから一年半。ご夫妻は其々に里での生活を楽しんでおられます。検討を始めた当初、夫婦の意見が合わず、入居にたどり着くまでには紆余曲折がありました。

ご主人の

「なんとかなるさ」に愕然

「70歳を過ぎた頃から、シニア向けのセミナーや老人ホームの見学に出かけたりしていました」と、奥様は最後の備えに熱心でした。しかし、その度にご主人を誘っても、全く興味を示してくれません。あるとき、奥様が「私が介護になったらどうするの？」って聞いたたら、「なんとかなるさ」と返ってきた。そのときにはもう関心をもつてもらおうのは無理かな」と諦めた

こともあったそうです。

ウォーキング三昧、ご主人の本音

一方のご主人は、学生時代から山登りが趣味。40歳代になり、お腹回りが気になりだした頃からマラソンにのめり込み、フルマラソンも幾度か走ったそうです。その仲間と歩こう会を立ち上げ、特に百キロ程度の長距離歩行のリーダーとして活躍していました。退職後は地域に奉仕するため、歩くことが苦手な方々を集めて、ウォーキングを生活習慣の中に入れてもらえるように、歩いて、観て、おしゃべりをして、心身とも健康になっただけのような輪を広げていったそうです。そんなウォーキング三昧の日々でしたので、「老人ホームに住むなんて考えられなかった。というより、まだまだ先

のことだし、妻に任せておけばいい」というのが本音でした。



「ウォーキングの会」手前、手を上げているのが太田様

奥様の作戦奏功

ある時ご主人が、奈良へ古代史のツアーに行くとき、奥様は、京都ゆうゆうの里に泊まっていけば近くていいよと誘ったのです。実は奥様は、京都ゆうゆうの里に出会い、一目で気に入ってからのというもの、諦めきれず月1回のペースで通っていました。終の棲家と心に決めて時を待っていたのです。

初めて里を見たご主人は、「い

やあ、想像以上でした。里周辺には、ウォーキングしたい環境がいっぱいあって・・・、もう帰ってすぐに身辺整理を始めました。歩こう会も後継者に引継いで。決断したら早いですよ（笑）。」



箱根・金時山より富士山を望む

いろいろな会を立ち上げてきたご主人に、奥様は「ここにきたら、もう会は立ち上げないでね」という約束をお願いしたそうです。会は立ち上げなくとも、ウォーキングの環境には事欠かないし、ライントコートから見上げる夜空の美しさ一つにも満足しています。昔の意見の違いがウソのようです。

いつまでも仲良くお幸せに！